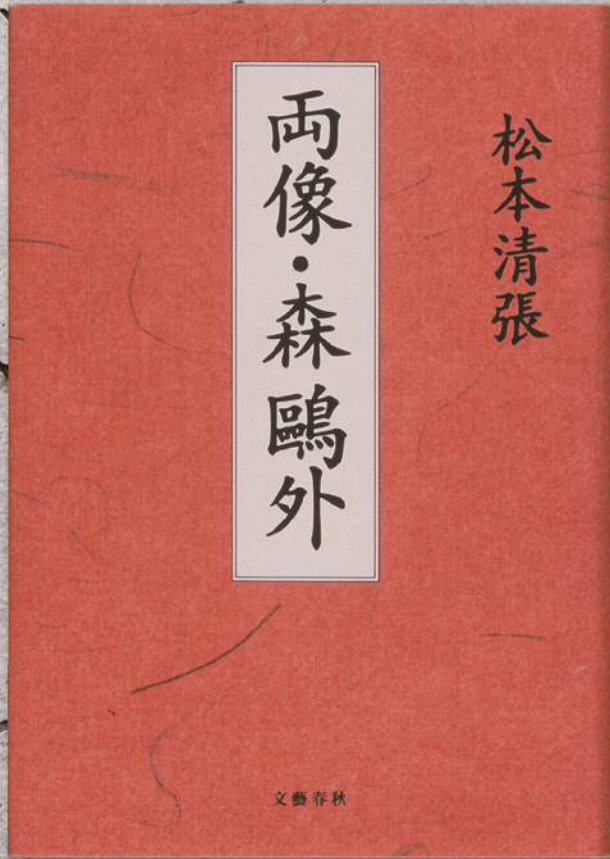


松本清張記念館

◆館報◆

2020.8
第64号

鷗外は軍医としての官途の現在が順境でないと、文学的意欲も昂揚しない人である。波が正比例している。ふたたび云う。文壇人鷗外ではなく、「軍医鷗外」である。



『両像・森鷗外』平成6(1994)年 文藝春秋

『両像・森鷗外』は、『文藝春秋』昭和60(1985)年5～10、12月号に掲載された。原題「二醫官傳」。

現在入手しやすい本

『両像・森鷗外』文春文庫

『松本清張全集64』文藝春秋

目次

- 企画展「点と線」のダイナミズム……………2
- 展示品紹介……………3
- 点描 作品の舞台を訪ねて……………3
- トビックス……………4

作品紹介

「私」(著者)は滋賀県甲賀郡土山の常明寺に森鷗外の祖父・白仙の墓跡を訪ねる。明治三十三年、小倉滞在中の鷗外が上京の途次、生涯に一度だけ祖父の墓を訪ねたのはなぜか。「私」は、小倉に「左遷」され、失意の鷗外が屈辱的な東京出張を前に、本意ならず勤務の途上斃死した祖父に心を寄せた、と読み解く。小倉「左遷」説を取り掛かりに、「私」は鷗外の人生と作品を足で訪ね、資料を渉猟する。最初の結婚の破局、生国・津和野の地政学、元老・山県有朋との関係、「興津彌五右衛門の遺書」と乃木希典への友情、歴史小説執筆の動機、「澀江抽齋」をはじめとする史伝小説の生成過程など、思索は深まる。死を前にした鷗外は、「アラユル外形的取扱ヒ」を拒み、「石見人森林太郎トシテ死セント欲ス」と遺言した。「私」はこれを、軍医が本職、文芸は余技として生きた鷗外が「はじめて死後「文学者」であることを宣言した」と解釈する。

松本清張は、「或る『小倉日記』伝」で芥川賞を受賞したのちも、鷗外への言及を重ね、生涯関心を寄せた。最晩年、再び取り組んだこの作品は、当初、「松本清張短篇小説館」第五話「二醫官傳」として連載された。のち、単行本化のため加筆、「両像・森鷗外」と改題される。医官でありながら文学者、功利主義者だがロマンティスト、コンプレックスと自持など、鷗外の二面性を明らかにする。なお、著者の病により、決定稿には至らなかった追加原稿の一部が巻末に収録されている。(学芸員 中西由紀子)

直筆原稿で見る——

「点と線」 のダイナミズム

2020年 2021年
9.11 [金] - 1.11 [月・祝] 地階 [企画展示室]

「点と線」は、推理小説作家・松本清張の地位を確立した代表作です。

この企画展では、当館が所蔵する「点と線」の直筆原稿を一枚ずつ展示し、新境地に挑んだ作家によるペンに込められた情熱と迫力を紹介します。

I. 「点と線」とは何か

日本ミステリー史にその名を刻んだ松本清張の代表作「点と線」。作品が生み出された背景や、出版界や読者に与えたインパクト、後世に与えた影響などについて振り返ります。

II. 直筆原稿、検証

当館が所蔵する104枚の直筆原稿を、期間ごとに入れ替えながら全て展示します。最初に発表した雑誌「旅」、初単行本も併せて展示しますので、文章の変化にもご注目ください。



III. さしえ動画「点と線」

さしえの名手、風間完画伯による「点と線」の当館オリジナル動画(2001年制作)を、場内スクリーンでプロジェクター上映します。



関連イベントのご案内

劇団前進座による朗読劇「点と線」

- 日時：令和2年11月3日(火・祝)
17:30 開場 18:00 開演
- 会場：門司赤煉瓦プレイス 赤煉瓦交流館
北九州市門司区大里本町 3-11-1
- 定員：先着 80 名 ● お申込み：松本清張記念館
tel 093-582-2761
- 参加料：1,000 円

小倉昭和館「北九州市ゆかりの作家 松本清張・火野葦平」 作品上映

- 上映期間：令和2年11月28日(土)～12月11日(金)
 - 上映作品：松本清張原作「点と線」
火野葦平原作「女侠一代」
 - 会場：小倉昭和館
北九州市小倉北区魚町 4-2-9 tel 093-551-4938
 - 鑑賞料金：1,200 円(2本立て)
- ※詳細は小倉昭和館HP等でご確認ください。
<http://kokura-showakan.com>



展示品紹介

『補遺 日本民俗学辞典』—「松本蔵書」印付古書

第一展示室の同時代パノラマ(年表・昭和19)下のケースに、茶色いヤケの目立つ古書がある。『補遺 日本民俗学辞典』(昭和十六年、梧桐書院刊。編者の中山太郎(明九・十一・十三)昭二十二・六・十三)は、柳田國男の創刊した雑誌『郷土研究』に触発され民俗学に道を定めたが、柳田らが重視したフィールドワークより文献資料を高く評価し『歴史的民俗学』を目指した。研究領域も可笑、巫女、盲人、葬儀など一般が避けがちなものが多く異端とも見られ、柳田らとも反目したが、図書館の膨大な地誌類を読みあさり三万枚ものカードを作成した研究方法は、奇しくも清張の自学スタイルと共通する。

とはいっても、松本清張と民俗学との出遇いの場には柳田國男の方であった。昭和十四(一九三九)年頃、朝日新聞社の考古学好きの校正係A主任の話から、(手引き書を買ったり、民俗学の雑誌や歴史書を雑誌^{※1}するようになった。そのころ小倉には、昭和十年に結成された第一期小倉郷土会があり、清張はその機関誌『豊前』(前記『民俗学の雑誌』か)を購読していた。会は柳田國男を招き講演会を行っており、清張が聴講した可能性もある。出世作『或る小倉日記』伝には、柳田國男の民俗学や『豊前』が取り上げられ、主人公は足で調査を行う正統なフィールドワーカー(取材)を実践する。展示品の『辞典』とともに、柳田國男、関敬吾共編の『日本民俗学入門』(昭和十七年、改造社刊)も記念館に遺っている。

展示品の『辞典』には、特別な「松本蔵書」印が捺されている。デザインナーらしい洒落た、篆書体の「松本蔵書」(写真)。

昭和十九(一九四四)年、二度目の召集のとき、出征にあたり急ぎ作らせたという蔵書印である。

明日指定の地に行くというとき、私は貧しい本箱を開いて、自分の蔵書に判を捺した。数多くない書籍だが、いづれも私にとっては愛着のあるものばかりだった。私が死んでしまえば、これらの本は知らないところに散ってゆく。それを惜しむあまりに、急につくらせた蔵書印を一冊ずつ丁寧に捺したのである。そのころ三つになる長男が印肉壺を両手に持って私が捺印しやすいうようにしていた。兵隊になつてからも、その本棚の前の子供の姿が長らく忘れられなかった。

実はこの蔵書印が捺された書物は、ほかに二十数冊、記念館内再現家屋『書庫』に遺っていた(企画展図録『松本清張と邪馬台国』参照)。民俗学や考古学、古代文化や美術関係書が多く、すべてが残ったかは判らないが、戦前の清張の知的関心の在り所が知れよう。

※(上)「雑草の美」昭和五一年六月三〇日、「読売新聞」夕刊。
(学芸担当主任 中川里志)



「補遺 日本民俗学辞典」

蔵書印「松本蔵書」

点描 作品の舞台を訪ねて

「鷗外の婢」②—福岡県京都郡みやこ町

執筆家の浜村幸平は、鷗外が小倉時代に雇っていた女中の木村モトについて、引き続き調査を行うため、行橋方面へ向かう。戸籍を調査したところ、モトの子であるミツは、大正一一年に結婚し、昭和四年に長男(三年後に死亡)、昭和一三年に長女ハツを出産していた。ミツは昭和二一年に四七歳で亡くなっていた。浜村はモトの追跡はここまでであった。浜村は二度と来ることもないこの地方を見物しようという気持ちに切り替える。

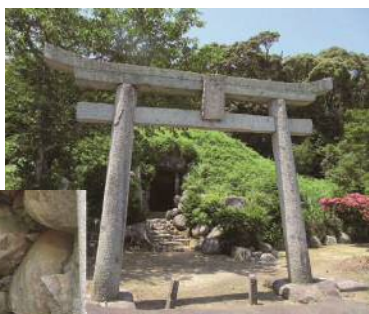
この作品には古書「神代帝都考」の引用や地元の歴史学者の話などにより、九州地方の郷土史が多く紹介される。読んでみると鷗外の婢の末裔のその後が気になる。同時に、郷土史に興味を湧かせる。そこで今号では、作中でふれられる福岡県京都郡みやこ町の史跡を紹介したい。

「綾塚古墳」は七世紀前半に築造された直径約四〇メートルの円墳である。近くにある橘塚古墳と同様に花崗岩の巨石を積み上げて作られた石室(遺体を埋葬するための施設)は全長約十九メートルで、複室構造の横穴式石室としては国内でも最大規模に位置づけられている。玄室(遺体をおさめる施設)には、この周辺地域では唯一の家形石棺が安置されている。一七世紀初めに細川藩の家臣が石棺を割り小倉に運ぼうとしたところ、数々の災害が起きたため元に戻したという伝説があり、それ以降、石棺は信仰の対象となり、地域の人々によって大切に守られている。

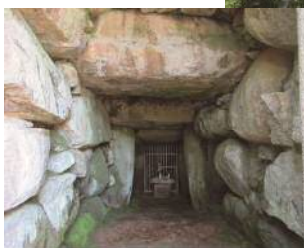
松本清張もこの地を訪れている。「私説古風土記」の中で(わたしは小倉で育ち、この地域は若いときから歩きまわっている)と語り、訪れたときのことを次のように書いている。

行橋に近い旧黒田村(いまの勝山町)の円墳の橘塚は石室の長いことが特徴となっていて、小学校の運動場の隅にあって運動用具の倉庫になっていた。戦時中わたしはここをカメラで撮っているとき、スパイではないかと怪しい眼で見られたことがある。綾塚は近くの山麓にある。

※(文藝春秋『松本清張全集55』私説古風土記より) (村上美智代)
※(1)綾塚古墳解説板「みやこ町教育委員会」みやこ町デジタルミュージアム



綾塚古墳



石室



令和2年度
中学生・高校生

読書感想文コンクール

若年層に清張作品に親んでもらうとともに、表現力を学び、豊かな心を育む契機となればという思いから始めました。
新時代を切り開く若者達へ、探求の人・松本清張の精神の伝達を働きかけるものです。

■ **応募対象** 全国の中学生・高校生

■ **課題図書** 中学生・高校生ともに下記から1作品

「**遠い接近**」(『遠い接近』文春文庫)

「**共犯者**」(『共犯者』新潮文庫)

「**左の腕**」(『佐渡流人行』新潮文庫)

■ **応募方法**

- 中学生、高校生ともに1200～2000字程度の読書感想文を書き、応募用紙に添えて提出してください。
- 手書き、ワープロどちらでも結構です。ただし全体の字数がわかるように応募用紙に1行の字数×行数を記入してください。
- 原稿は自作で未発表のものに限ります。なお応募原稿はお返しいたしませんので必要な人はコピーをおとりください。

■ **応募締切** 令和2年9月30日(水) ※当日消印有効

■ **選考** 松本清張記念館内の選考委員会により選考します。

■ **発表**

最優秀賞、優秀賞の受賞者には、11月中旬頃、本人と学校に通知後日表彰式を行います。なお、入選の結果は、当館発行の「館報」で発表する予定です。その場合、著作権は松本清張記念館に帰属します。

■ **賞** (受賞人数等変更の場合もあります。)

- 最優秀賞(1人)
- 優秀賞(中学の部…1人)(高校の部…1人)
- 佳作(中学の部…3人)(高校の部…3人)

※なお、最優秀賞は中学の部、高校の部で各1回ずつの受賞と限らせていただきます。最優秀賞受賞後の応募も歓迎します。すでに受賞した人からの応募作品が賞に該当する場合は「特別賞」として当館発行の「館報」掲載を予定しています。

■ 後援 西日本新聞社 ● 協力 モンブランジャパン

応募先
問合せ

〒803-0813 北九州市小倉北区内2番3号

松本清張記念館 読書感想文コンクール係

TEL 093-582-2761

FAX 093-562-2303

※応募用紙は記念館HPからダウンロードできます。

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止にご理解とご協力をお願いします。

- ご来館の際は、マスクの着用、手指消毒、検温、連絡先カードの記入、ソーシャルディスタンスの確保をお願いします。
- 発熱や軽度であっても咳、咽頭痛等の症状がある場合は入館をお控えください。
- 三密対策のため入場制限を行うことがあります。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況により、休館やイベント等が中止となる場合があります。

記念館からのお知らせ 令和2年3月31日付けで副館長の丸田圭一が退任しました。

編集
後記

コロナ禍で当館も様々な活動が制限されておりましたが、9月11日より、企画展「『点と線』のダイナミズム」を開催する運びとなりました。日本ミステリー史にその名を刻んだ松本清張の代表作の魅力をご紹介します。皆様のご来館をお待ちしています。

(M.M)



イラスト:山藤 章二

編集・発行

松本清張記念館

〒803-0813

北九州市小倉北区内2番3号

TEL 093(582)2761

FAX 093(562)2303

https://www.seicho-mm.jp

制作 有限会社シーズ

- 開館時間 午前9:30～午後6:00 (入館は午後5:30まで)
- 休館日 年末(12月29日～12月31日)、館内整理日
- 観覧料 一般/600円(480円) 中・高生/360円(280円) 小学生/240円(190円) ()は30人以上の団体
- アクセス JR:小倉駅から徒歩15分 西小倉駅から徒歩5分 小倉駅からバスをご利用いただく便利です(小倉城・松本清張記念館前下車) 車:北九州市高速、大手町ランプより5分

